

【公表】 事業所における自己評価総括表

○事業所名	多機能型事業所 運動療育センターキーツ・トリー		
○保護者評価実施期間	令和 8 年 2 月 16 日 ～ 令和 8 年 2 月 22 日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数) 38	(回答者数) 20	
○従業者評価実施期間	令和 8 年 2 月 2 日 ～ 令和 8 年 2 月 14 日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数) 5	(回答者数) 5	
○事業者向け自己評価表作成日	令和 8 年 3 月 5 日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	一人ひとりに合わせた丁寧な支援体制	平日・土曜日ともにグループ分けを行い、少人数での支援体制を整えている。 そのため児童一人ひとりの様子を細かく観察しながら、発達段階や特性に応じた関わりを行うことができています。	支援内容や目標を共有し、職員間で支援方法の統一を図る。 また、保護者とも情報共有を行いながら、家庭と連携した支援を強化していく
2	運動を中心とした発達支援	日々の活動に粗大運動を取り入れ、跳ぶ・走る・登るなど基本的動作を取り入れたプログラムを実施している。 運動を通して体幹・バランス・協調運動の向上を目指した支援を行っている。	児童の発達段階に合わせて運動内容を見直し、活動の幅を広げる。 新しい運動プログラムや感覚遊びも取り入れ、継続して楽しく取り組める環境を整える。
3	個別支援を意識した活動の工夫	児童の特性や興味関心に合わせて、指先活動・感覚遊び・口腔トレーニングなどの個別支援を取り入れている。 短い支援時間の中でも効果的な支援ができるよう工夫している。	定期的な振り返りを行い、支援内容を見直す仕組みを整える。 個別支援の取り組みを職員間で共有し、支援の質の向上につなげていく。

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点	事業所として考えている課題の要因等
1	地域との交流機会が少ない	支援時間や活動時間の関係で、地域の施設やイベントとの交流機会が限られている。	地域イベントや近隣施設との交流など、無理のない範囲で地域との関わりを少しずつ増やしていく。
2	支援時間が短くなる児童がいる	送迎時間やスケジュールの都合により、活動時間が短くなる場合がある。	短時間でも取り組める活動内容を工夫し、支援の質を維持する。 また、保護者と相談しながら可能な範囲で利用時間の調整を検討する。
3	保護者への情報共有に差が出ることがある	活動内容の伝達は行っているが、職員ごとに説明の仕方や伝える情報量に差が出ることがある。	共有する内容の基準を整え、どの職員が対応しても同じレベルで情報が伝えられるようにする。 連絡帳やLINE等で保護者への連絡の機会を増やす。